

社会部会

<県研究主題>

社会的な見方や考え方を養い、より良い社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 五十嵐 信子（県央地区）

<研究主題>

「社会的事象に対する関心・意欲・態度」を高める学習指導の工夫 — 歴史的分野 —

1 提案内容

歴史的分野の授業実践報告により「社会的事象に対する関心・意欲・態度」を高める学習指導の工夫について提案した。

(1) テーマ設定の理由

社会的事象への「関心・意欲・態度」を高めることは、生徒自身がより積極的に思考・判断・表現をすること、より知識・技能を習得しようとするにつながり、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育てていく。生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の育成をめざすため、「社会的事象に対する関心・意欲・態度」を高める学習指導の工夫を本研究のテーマとした。

(2) 研究内容

- ① 主体的に学ぶ意欲や態度をはぐくむためのワークシートの活用（単元の【初発用】・【終末用】および【毎時間用】の3種類のワークシートを用い、感想や思いつくことを記入していくことによって、関心・意欲・態度の育成につなげる取り組み）

ア ねらい

生徒が心に浮かんだことを書きとめたり、振り返ったりすることで、内面の意識が顕在化され、関心や意欲の芽生えや、膨らみを促すことができる。生徒の関心・意欲・態度が学習のねらいに向かって高まっているかなどを知り、それを指導に反映させることができる。

イ 方法

- a 単元ごとに【初発用】・【毎時間用】・【終末用】の3種類のワークシートを用意する。
- b 【初発用】は単元のはじめに10分程度で記入する。生徒が持っている学習内容・具体的事象への関心・意欲を顕在化させ、学習の入り口での課題や気づきなどをみることができる。
- c 【毎時間用】は毎回の授業時に気づいたこと・感じたことなどを記入する。感想とともに、個別に学習内容の理解度などをみることができ、指導者としての振り返りにもなる。毎時間書かせることで生徒の学習状況を見て、必要なアドバイスができる。
- d 【終末用】は単元のまとめの時間に10～15分くらいかけて【初発用】・【毎時間用】の2枚を参考にして記入する。学習のまとめとして形成される「関心・意欲・態度」、教科や単元目標に対する実践意欲の形成や変容をみることができ、生徒も自分の変化に気づくことができる。3種類のワークシートを通じて、生徒の関心・

意欲・態度の変容をみることができる。

② 定期的な予習・復習による知識・技能の習得を支援する取り組み。

ア 予習

予習用ワークシートで重要語句を教科書で調べ、授業のはじめに発表させる。

イ 復習

授業時などに小テストでくりかえして重要語句を復習する。3～4回同じ語句に取り組むことになる。

③ その他

単元「天下統一への歩み」の授業実践のなかでの上記①・②の工夫や実物教材の提示（昔の枅など）。

(3) 成果と課題

① 3種類のワークシートにより生徒の変容を知ることができた。生徒の伸びを感じとることができた。

② 小テストの取り組みは生徒にとって、できて楽しい・役立つという実感がある。授業内容の整理にもなる。

③ 評価方法が課題である。

2 協議内容

(1) ワークシートにはコメントをしっかりと書いて返却すべき。それにより生徒の書く量が増え、質も高まる。コメントを書いてやってほしい。そこからまた授業が新たに展開していく。よいコメントについてはコピーをして授業で紹介してやっている。

(2) 同じ取り組みを違う中学校でできるかということそうではないこともある。小テストが生徒の実態に応じた取り組みであることが大切である。

(3) コメントで何を書かせるかが大切だと指摘は全くその通り。書くことによって教師と生徒のつながりを感じる。（提案者）

3 まとめ

関心・意欲・態度の観点は生徒の変容を読み取りづらい。この提案実践の良い点は、関心・意欲・態度が高まっている生徒像をイメージして取り組んでいるところ、様々な技法を取り入れて観点を評価しようとしているところ、年間を通して継続して取り組める実践であるところである。

決して奇抜なことはやっていない。取り入れやすいところから、参考にしていくと良い。生徒がやって良かったと思えば、また次の学習への意欲につながっていく。

学び方を学ぶのが社会科の大切なところであり、そのような学習が求められている。

〈研究主題〉

「『ルール』を題材とした法教育授業実践」

1 提案内容

単元名 現代社会の見方や考え方 「よいルールってどんなもの？」

(1) テーマ設定の理由

現行の学習指導要領で公民的分野に新たに加えられた内容として、「人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。」とある。多様な価値観をもつ人々が集まり形成される社会を安定させるためには「ルール(きまり)」が必要である。ルールの意義、役割、根底にある価値などを追求し、考察することは、現代社会の見方や考え方を養うことにつながり、後の学習をすすめていく土台となる。この力がより良い社会集団を形成し社会生活を向上させると考える。ルールの必要性や価値を考え、身につけさせることをねらいとし、このテーマを設定した。

(2) 実践内容

- ① 身近にあるルールから、ルールの役割を考え、理解する。
 - ア. 多くの人々の利益を実現する役割
 - イ. トラブルを防ぐため、解決するための役割
 - ウ. 事故やけがを防ぐための役割
- ② 架空のルール(校則ではないが、生徒間で受け継がれている私的自治におけるルール)を題材に「ルールとは何か？」を考える。
 - ア. 提示されたルールの問題点は何かを考える。
 - イ. グループで意見交換を行い、他者の考えを聞く。
 - ウ. グループでの協議をふまえ、自分の考えを再構築する。
- ③ 適正なルールの条件について考え、自分の意見を発表する。
- ④ ①～③でだされた意見の集約と生徒への提示をおこなう。
 - ア. 生徒の記入したワークシートの活用
 - イ. ルールの評価項目(ルールが備えているべき条件)を具体的に提示する。
 - ・公正(目的・手段の相当性、明確性、適性手続き、公平性・平等性)
 - ・効率

(3) 成果

- ① 身近な課題(生徒の実生活にかかわる内容)のため、生徒の反応が良く、自分の考えを持つことができた。
- ② グループ協議により「対立」から「合意」への過程を生徒が自然の流れのなかで体得することができた。
- ③ 「ルール」を受け入れる側からだけでなく、「ルール」をつくる側から、立場をかえて物事を考えることができた。
- ④ 本時の内容が、今後の授業にどのように活用でき、発展させることが可能か、新たな

テーマを発見することができた。

2 協議内容

(1) 法教育をどのようにとらえるか。

→「個人の尊厳」を根底的な価値とする。諸個人の行動・利益・意見・立場などに差異や対立を認めるからこそ、その調整のためにルールを必要とする。

(2) この単元の最大のねらいは何か。

→物事の判断基準としての「ルール」の必要性や価値を考えさせたい。

(3) 授業のなかで留意した点は何か。

→「合意」に至る(導く)ことを目的とした授業や教材ではない。

課題に対して自分の考えを持ち、「対立」する考えを聞き、自分の考えを再構築することを重点とした。

(4) 評価についてどのように考えるか。

→「思考・判断・表現」の観点を重視するが、評価規準の設定や具体的な評価の方法が難しい題材である。

3 まとめ

(1) 「ルールとは何か？」を考えるなかで、社会的な見方や考え方の基礎を身につけることが目的である。

(2) 「対立」「合意」「効率」「公正」等の用語を「知識」としてではなく、「概念」としてとらえることが大切である。特に、この単元については独立したものとして扱うのではなく、この単元で習得した「概念」を、後に学習する様々な領域で活用することが望ましい。

(3) 「評価」については、本時の授業だけでは判断できない。今後の授業の中で、本時の成果が発揮できるかどうか「評価」であると思われる。

提案1、提案2をふまえた協議（グループ協議）

「基礎的、基本的な知識及び技能・概念を継続して活用することができる授業デザイン」

○単元ごと、授業ごとのねらいを明確にする。

○小学校、高等学校との連携→基礎、基本の継続。

○指導者側の継続(独自教材の作成、提出物へのコメント等)のあり方。

・無理のない継続も必要。

○授業形態(グループ・ワーク、ペア・ワーク等)の有効な活用について。

○生徒の達成感、成就感が感じられる教材・教具の工夫。

○表現力とは、「自分の意見がはっきりと述べられているか」に最も着目すべきである。

○「指導と評価の一体化」の見直しが必要。

・「評定」のための「評価」にかたよっていないか。

・指導のための「評価」と記録に残す(数値化する)「評価」の違い。